



神奈川歯科大学 理事長

鹿島 勇

共走元年

新年明けましておめでとうございます。

改革4年目にあたる2014年の年頭標語は、文部科学省の経営指導および補助金減額対象法人から解放され、新しい時代の幕開けを期待して「共創元年」と題しました。今年はその「共創元年」から4年目に入る2度目の節目であり、共に創り上げ共に走り抜ける意味を込めて「共走元年」としました。

成長戦略とシンギュラリティー

シンギュラリティーとは、Ai（人工知能）が人間の脳（知性）を超える特異点のことを意味します。それは西暦2045年と予測されています。そのAiにIT（情報技術）とグローバルイゼーション（世界化）が複雑に絡み合い、その間における時勢の動きを推測することは難しいでしょう。100年先は全く見えないが、50年先は見えるようでやはり見えない。しかし、10年先はばやけながらもはっきり見える、と専門家は言います。おそらく、30年後も五感を鋭く研ぎ澄ませば、臚げながらも時代の輪郭だけは見えてくるかも知れません。

一方、それ以後の時流を先読みし、本学の未来図を具体的に描くことは、事象の地平線から30年も手前にいる私達には不可能です。特異点後の社会環境を想定したとき、医療教育機関の役割のみならず、歯科医学そのものが形態的・機能的にも激変しているに違いありません。したがって、これからの30年間に渡る成長戦略の策定と実行そしてその成功の積み重ねが、シンギュラリティーを超えた時代を制し、100年後の本学の有り様を決定づけることになります。

100年に一度来る世界の歴史が大きく動く時、その序章ともいわれる2017年、多彩な個の集合体として共に走り抜ける突破力が本学に新しい付加価値と輝く未来をもたらします。

おもてなし

「おもてなし」の日本語が、東京オリンピック招致活動を通して、世界的に有名となりました。「おもてなし」を本学の附属病院に適用すれば、それはホスピタリティー、すなわち「熟練の歯科医療技術と安心感の提供」に他なりません。それに、本学独自の革新的医療技術が付加されれば「最高のおもてなし」となります。その地域密着型を目指した新病院が9月に完成します。それは、高いデザイン性の中に強さと優しさが簡素に表現され、本学のシンボリック存在としてまぶしく私達の目に映るでしょう。しかし、それは見た目の印象と形が変化

したことであり、変革とは異なります。外見も大切ですが、何よりもそこで働く教職員の脳（認識）が変わらなければなりません。本学の将来ビジョンは「健康長寿社会を支えるプロフェッショナル組織」を目指すことです。プロとは、前向きに自律的に変革し続けていくことであり、個々の戦略とその実行の継続に他なりません。変革が進まない4つの理由として、知らない、リスクが怖い、面倒くさい、あの人が嫌い、と言われます。私達も、一度は自分に問うべきフレーズであろうかと思えます。

教育パラダイムシフト、そしてその先へ

本学は、口腔を専門とする医療教育機関であることから、主体は学生であり、何よりも教育を最優先しなければなりません。また、附属病院の主体は患者様であり、学生は患者様を通して現場の生きた医療を学びます。そして、大学院は研究が主体であり、内外ともに高い評価を受ける研究を成就させていかなければなりません。その成果やプロセスは、講義を通して学生に啓発され、学生はその研究に魅了されて大学院の門を叩く。一方、臨床医は生涯研修を通し、新しい知識と技術の向上を目指して再び母校の門を潜る。この一連の繰り返しがあって初めて本学は発展を遂げていくことができます。

しかしながら、教育・臨床・研究業務は、基本的に同じ教員の兼担によって賄われてい

ます。それ故、この3つの因子を有機的に横断する、教職員共有の普遍的教育グランドデザインが必要です。それは、直接・間接的に組織改革や再編、人的配置等の法人経営の核へと繋がっていきます。ここでいうグランドデザインとは、インフラとしてのFD、SD、IR、アクティブラーニング、GPA等の教育・管理・学習・評価方法ではなく、体系化された学習内容そのものを指します。それは入学から学士、博士そして生涯教育まで、本学の教育・臨床・研究を包括する法人の軸として完成されていなければなりません。一学年5学期制のみが目立ち、後は基本的に改革前と同じでは変革と言えません。

教育パラダイムシフトから3年を経過した今、講座主導型脱却の検証、総合教育部の位置付けと責務、教育インフラと学習内容との整合性そして統合的な教育内容体系化の見直しと変革が問われています。

おわりに

「改革元年」から「共走元年」まで、8年間に渡る年頭標語には、本学の復旧と復興、再生と再建そして成長戦略から未来化構想までの歴史が凝縮されています。改革も未だ道半ばであり、大義名分と原理原則、夢を叶えようとする心意気と攻める勇氣、そして覚悟と使命感を今一度自分に言い聞かせつつ理事長として8回目の新年を迎えます。



神奈川歯科大学 学長
平田 幸夫

「平成 29 年 新たな神奈川歯科大学 100 年の幕開に寄せて」

新年、明けましておめでとうございます。昨年中は学生教育、臨床、研究等、成果を感じ取れる年となりました。心からお礼申し上げます。また今年は、本学の 107 年の歴史の中で、創立 100 周年記念式典や新病院落成などを迎え新たな歴史を刻む重要な年になります。このように創立 100 周年を迎えられますのも、今まで本学を支えてきた教職員の方々の良心の賜物であり、重ねて感謝申し上げます。

さて、日々形を変えながら門前に聳える新病院の建設は順調に進んでいます。昨秋には、基盤工事が長くなかなか

立ち上がらない躯体にやきもきしましたが、堅固な建物ほどこの基盤工事が最も重要な過程であるといひ納得しました。開院が楽しみです。

そのような意味で、本学の新たな飛躍への基盤となる今年を展望しますと、先程の基盤工事に匹敵する盤石にすべく課題が複数あります。日頃の業務とは別にその項目を列挙しました。①新病院が 9 月に開院します。開院準備も佳境を迎え、新病院のコンセプトの実現に向けた整備を完了すること。②法律による 7 年毎の機関別認証評価を 4 月に申請します。今審査の特徴は、内部質保証システムの構築とその適切運用です。よって、自己点検評価において、各部署での PDCA サイクルの適切な機能と内部質保証の向上を図ること。③大学院が 4 月から大講座制の一専攻に移行します。学位運営体制の充実と医療系小規模大学としての成長戦略の核となる統合型ブランディング研究体制を構築

すること。④歯科医師国家試験出題基準改訂に伴う第 111 回国家試験への早期対応を図ること。⑤ 3 月に 3 回目の歯学教育モデルコアカリキュラムの改訂版が公表され、平成 30 年 4 月から、教育開始と共用試験への出題が実施されます。よって、改訂版を基にカリキュラムとシラバスの体系化を見直すこと。⑥歯学教育認証評価は昨年 2 月に評価基準トライアル版が公表され、実施の方向で推移しています。本学の海外成長戦略には海外との教育認証が有利に作用します。よって、評価基準の公表は好機で、基準を基に教育面でのハード・ソフトを策定すること。⑦第 50 回の全日本歯科学学生総合体育大会の主幹を本学が担います。教職員全員で対応すること。⑧今後の 18 歳人口減少が懸念されています。入試倍率は大学運営に影響を与えるため、適正倍率の確保を重要課題として入試戦略の強化を図ること。

以上のように、本年に対応すべき課題は山積しています。確りとした計画の中で内部質保証のサイクルを回し、学長のリーダーシップを発揮して、皆様と共に突き進んでいかなければなりません。今まで同様に皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



神奈川歯科大学短期大学部 学長
長谷 徹

『新たな未来へ、次の世紀へ。』

新年明けましておめでとうございます。

さて、本年 5 月には本学園創立 100 周年の記念祝賀会が開かれます。大久保潜龍先生により神田猿楽町で産声を上げ、明治 43 年 (1910) 9 月

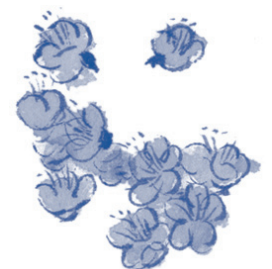
に正式に認可されたのが本学園の輝かしい歴史の始まりですが、それから 1 世紀を超える長い月日のなかで歯科医学教育の灯を途絶えることなく守ってまいりました。この事実思いを馳せる時、先人の御尽力に感謝すると共に歴史の 1 ページに立ち会えることの喜びを禁じ得ません。

併せて今年の秋には新病院の完成があり、学生、教職員共々その期待は否が応にも膨らみます。正に歴史的事業が続くわけで、本学園は 100 年の時を経て名実ともに新たな

飛躍の時を迎えます。折しも健康日本 21 は第 2 ステージへと進化し、その目標も健康寿命の延伸と健康格差の縮小へと、社会のニーズの高まりと多様化に対応しております。それに伴い、これまで以上に歯科衛生士、看護師への期待は高まっておりますが、21 世紀に入った今、イノベーションに立脚した新たな活躍の創出こそが神奈川歯科大学短期大学部の使命であり、その努力の跡が本学の歴史として紡がれていきます。

最後に、神奈川歯科大学短

期大学部が神奈川歯科大学の一員としてその力を発揮し、本学園の益々の発展に寄与することを心から願っております。





神奈川歯科大学 副学長

榎木 恵一

新大学院開設に向けて

新年、明けましておめでとうございます。

本年は神奈川歯科大学大学院にとって、新たな出発を果たす年となっています。これまで大学院では、基礎と臨床が2つに分かれて組織編成されてきましたが、これからは2つの強みを融合させ臨床研究の推進を柱として、新たに1本化された歯学専攻が誕生します。新歯学専攻では、研究力により歯科界に5つの解決すべき課題があることを認識しており、その各課題を解決

する母体を講座として位置付け講座再編を行いました。また、その課題の解決に活躍する人材の養成を強力に進めることを使命と考え、大学院が具体的に社会貢献をする体制の構築を目指しています。さらに、横浜研修センター・横浜クリニックを大学院設置基準上の校地として申請したことから、大学院横浜キャンパスも誕生します。この様に新附属病院および横浜クリニックと連携を強化し、臨床研究の推進母体となる臨床研究センター構想も検討中です。また、歯学部においては、学生の研究マインドの醸成をさらに進め、歯学部・大学院・附属病院・横浜クリニックが、研究面で建学の精神の実現のために一本の糸になれるよう進めていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



神奈川歯科大学附属病院 病院長

小林 優

新病院の診療体制

新年明けましておめでとうございます。

今年は、創立100周年記念式典や新病院開設などの重要行事が目白押しで、本学にとっては大きな節目となります。十二支の酉は、一説によれば元々酒壺を意味し、収穫した果実から酒を造ることに由来するそうですが、正に未来の美酒を夢見て醸造に励む年になりそうです。病院建設もすこぶる順調に進んでおり、本紙が発行される頃には骨組は完成しているに違いありません。日に日に高度を増す鉄塔を見上げながら、新病院の診療体制について検討を重ねる毎日が続いています。

今、大学病院の在り方は、超高齢社会の到来と疾病構造

の変化に伴い、大きく変わろうとしています。横須賀・三浦地域は県下でも最も急激に高齢化が進行している地域であり、それとともに基礎疾患をもつ患者の割合（有病率）が増加しています。こうした背景から病院1階には、全身管理の下で高齢者・有病者・障害者の治療を担当する専門科を設置しました。また3階には、糖尿病や脂肪肝、大腸癌など歯科との関連性が高い生活習慣病に対して医師と歯科医師が連携して治療に当たる新たな診療部門を設ける予定です。さらに、最新のCAD-CAM技術を駆使して迅速治療を目指すデジタル歯科診療部門を新設します。また4階には、従来の口腔外科とともに、口腔疾患の内科的治療や周術期管理を担う診療部門を新設する予定です。

以上のように新病院では地域社会との共存を前面に押し出した診療体制を採っています。こうした取組を通じて本学が新たな発展段階を迎えることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



神奈川歯科大学 副学長

菅谷 彰

新年度を迎えるにあたり

新年明けましておめでとうございます。本年は神奈川歯科大学の教育改革5年目となります。5学期制度を導入した平成25年度の新入生も、早5年生となり登院実習を迎えます。本学の新たな教育プログラムを経験してきた学生が、得られた知識、技能、態度を、臨床の現場で発揮し、Student Doctor となって活躍することが期待されます。学生生活に目を向ければ、多くの学生が課外活動や学園祭で活躍することが期待される

年でもあります。今年に迎える第50回歯科学学生総合体育大会では本学が総合主幹を務め、一般の活動に加え主幹校としての責務を果たすべく、すでに数名の学生たちが起動し始めました。こういった活動を支える本学の学生基質は明るく素直で粘り強いものであり、学業、課外活動共に活躍が期待されます。入学試験に関しても学力の担保と共に、主体性や協働性、汎用性に関する能力も求められます。現在、一部入試システムを改変し、必要な能力診断を行い入学者の選抜機能を高めています。こうした一連の教育改革や活動が本学の明るい将来を導くものと信じ、微力ではありますが更なる向上をめざし尽力していきたいと考えております。



横浜研修センター・横浜クリニック 院長

井野 智

「PDCAのC！」

新年、明けましておめでとうございます。

横浜研修センター・横浜クリニックは本年7月に開設15周年を迎えます。私が横浜で過ごした5年間を振り返りますと、就任当時、徹底した分析で危機的な状況（数字）を知るにつけ、スタッフの皆さんに十分な説明もできないまま、やや乱暴とも言える経費削減の施策を性急に取り組みましたから、本当にご迷惑をおかけした事、深く反省しています。それでも横浜は、立地を含めて優位性があり、また、ポテンシャルの高い優秀なスタッフが多くいましたから、たった2年で資金収支上ではありますが、収支均衡が可能であることを証明

でき、その後もスタッフの皆さんの協力を得て、大胆かつ戦略的に増資して改革に着手することができました。結果、右肩上がりの実質成長率2桁を実現し、危機的な状況を脱出し、わずかではありましたが果実が得られるなど、明るい兆しも現れ始めました。もちろん、毎年、各部門や事業別に詳細な分析とそれを基にした事業計画を立案・実行してきた成果であると思います。一方で、今こそ、過去5年、無我夢中で進めてきた改革路線についても、しっかりと議論・反省し、場合によっては軌道修正を行う勇気や覚悟も、重要な施策の一つであると考えます。5年前とは大きく変化した社会情勢も見据え、PDCAサイクルをしっかりと回し、スタッフ全員が納得しながら、さらなる上のステージへ向けて前進することこそ大事であり、今年のテーマと考えております。ご協力の程、宜しく願い申し上げます。



神奈川歯科大学 法人事務局長
峯村明彦

知の空間

新年あけましておめでとうございます。文部科学省の6年間にわたる経営改善計画が終了し3年が経過しました。財務状況がやや改善に向かい、いよいよ新病院を開院する年となりました。平成29年の動向は、アメリカの大統領選挙の結果や隣国の政治状況から、明らかに世界の混乱が始まるのではとの憶測が渦を巻いています。歯科業界では、団塊の世代が古希を迎えそろそろ第一線からリタイヤしていく傾向が見られるよう

です。18歳人口の減少、センター試験に代わる大学入学希望者評価テスト(仮称)の導入、学校教育法の一部改正、こうした社会環境下における大学職員に課せられる課題は、歯学部、短期大学部のそれぞれの3つの方針(卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ)の把握と学生定員の充足、それに伴う教育設備、教育環境の整備、研究基盤整備等の充実が挙げられます。文部科学省を初めとする関連団体からの補助金の適正な獲得と執行、学生達が朝学校にきて帰るまでの8時間~9時間の間「心地よい学問空間の創設と提供」のために大学職員は、何をすべきか今一度立ち止まってまずは自分の周りの諸事案件から考えていただきたい。



神奈川歯科大学同窓会 会長
大館 満

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様には日ごろより同窓会活動に対しご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年は熊本地震(平成28年4月14日21時26分)、その後、連続で大型台風の上陸、豪雨、鳥取地震と続ききました。明らかに温暖化による異常気象と地殻変動を感じさせます。熊本地震では全国と同窓のお力を得て昨年10月、支援金の形で被災した同窓を応援する事が出来、安堵いたしております。

このように次々に災害が発生する現状で日本政府の危機管理が疑問視されます。阪神・淡路大震災(1995年1月17日)の後、日本政府はアメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁

(FEMA、フィーマ)の存在を精査し日本版FEMAを検討していたことを思い出しました。その後の事はよくわかりませんが、いまだに日本では災害発生のたびに総理大臣や担当大臣がばたばたした姿をさらし慌てて組織作りをしているイメージです。大学のみならず同窓会においても危機管理の対応が今まで以上に重要になると考えております。

さて、学校法人神奈川歯科大学においては新病院の建設もすすみ、本年9月には竣工の予定です。5月には創立100周年記念事業が計画されています。同窓会も一丸となり大学の100周年記念式典、新病院竣工、開院を応援してまいります。同窓会においては組織改革、事業の見直しを進めております。本年2月の代議員会にて若手会員、女性会員がどのようにしたら同窓会活動に参画できるかに絞って結論を出して参ります。

皆様には今後ともご高配とご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。本年も皆様のご多幸とご健勝を心より祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。



神奈川歯科大学短期大学部同窓会 会長
名取すみ子

お健やかに新年をお迎えになりましたことお慶び申し上げます。

日頃より同窓会に鹿島 勇理事長を始め、多くの皆様方のご理解、ご支援、ご協力をいただき感謝しております。

今年は学校法人神奈川歯科大学創立100周年記念式典の開催、病院の新築移転と重ねがさねお祝い申し上げます。

同窓会役員も今では日本女子衛生短期大学(大岡山・横須賀移転後の卒業)湘南短期大学、短期大学部卒業の23歳の方から上は80歳の方まで、特に若い役員(看護学科、

歯科衛生学科卒業)の加入で新たな風を感じています。重鎮の方の最もなご意見、若手の疑問や意見をお互い尊重し合いながら活発な意見交換を行い丁寧な同窓会運営を行っております。これこそが同窓会運営の基本及び特権、醍醐味ではないかとつくづく感じています。

現在同窓会誌クローバー(年1回3月)を発行、同窓会の活動、同窓生の近況、学校の情報等々掲載し好評を得ております。

本年7月には3年に1度の同窓会総会を大学構内で開催致します。

是非、母校をお尋ねになり同窓会総会に出席していただきたいとお願い申し上げます。

本年が皆さまにとりまして輝かしい1年になりますよう心から祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

瑞宝小綬章を受章



平成28年11月3日(木)、名誉教授新藤潤一先生が瑞宝小綬章を受章されました。新藤先生は、昭和49年4月に神奈川歯科大学歯学部助教授として着任、昭和57年4月に教授に就任し、教務部長、附属病院長、図書館長、大学院歯学研究科長を歴任され、現在は本学の評議員となられております。平成15年3月に定年退職されるまで歯学教育・研究の発展に努め、同年4月には神奈川歯科大学名誉教授に就任され、今日に至っております。

また、口腔外科学の分野において、顎口腔領域放線菌症の研究で、顎下リンパ節内放線菌症の存在を報告し、放線菌のリンパ行性感染はないとする通説を初めて否定しました。また、放線菌症の臨床診断根拠である菌塊の微細構造から菌塊の形成過程と放線菌症の発症機構の解明に貢献しました。

長年にわたり歯科口腔外科領域の教育者並びに医療人として全力を尽くし、その社会に残した功績が称えられました。

(瑞宝章は「公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者に授与」されます。)



平成 28 年度競争的資金獲得一覧

研究代表者	所属	職名	
高橋 俊介	口腔科学講座	准教授	糖尿病性血管障害は口腔から予見できるか？ 歯肉微小血流による非侵襲的評価法の確立
松尾 雅斗	口腔科学講座	教授	光機能化処理によるインプラント周囲骨形成促進の試み。—微小循環からのアプローチ—
森本 佳成	全身管理医歯学講座	教授	乳幼児の周術期における糖脂質代謝の改善に関する研究
山本 伊佐夫	災害医療歯科学講座	講師	虐待ハイリスク児早期発見泣き声診断ソフトの開発と舌喉頭矯正術による夜泣き改善評価
浜田 信城	口腔科学講座	教授	デンタルバイオフィルムにおける病原因子の分子遺伝学的解明に関する研究
富山 潔	口腔機能修復学講座	講師	抗菌剤がポリマイクロバイアルバイオフィルムの代謝および群集構造へ与える影響の解析
木本 茂成	口腔機能修復学講座	教授	成長発達期における口腔筋機能療法の効果に関する生理学的研究
小松 知子	全身管理医歯学講座	講師	唾液中の活性酸素とプロオーム解析による歯周病バイオマーカーの探索
高橋 聡子	口腔科学講座	講師	抗酸化物質クルクミンを用いた歯周病治療戦略の可能性 / 血管機能を指標とした解析
飯塚 純子	口腔機能修復学講座	助教	漂白と効率的再石灰化を誘導する歯質改質システムの創製
山本 龍生	口腔科学講座	教授	要介護、認知症、転倒の予防への歯科的貢献を目指した多地域大規模追跡研究
倉田 俊一		特任教授	p63 がもつ口腔癌の悪性転化抑制能をゲノム編集により解析する
椎谷 亨	口腔機能修復学講座	講師	初期根面う蝕病巣に対する過再石灰化治療法の開発
武藤 徳子	口腔機能修復学講座	講師	感染歯髓への MTA 直接覆髄後のデンティンブリッジ形成機構の解明と OPN の役割
星 憲幸	口腔機能修復学講座	准教授	口腔カンジダ症における唾液中代謝物質の網羅的解析と新規治療法の確立
吉野 文彦	口腔科学講座	准教授	予見される口内炎の発症予防・増悪抑制を試みる新規治療マネージメントの検討
小澤 重幸	顎顔面機能再建学講座	講師	癌を NK 細胞へ抗原提示する抗体型分子標的治療薬セツキシマブの新たな治療戦略
近藤 忠稚		特任講師	エピジェネティクスの概念から判断するセツキシマブ投与前の新たな評価基準
山本 信治	歯学教育学講座	准教授	口腔癌および前癌病変のマッピングアレイを用いた発癌関連遺伝子の解明
荒川 浩久	口腔科学講座	教授	低濃度フッ化物による老化・寿命制御の分子機構の解明
遠山 歳三		特任講師	鶏血藤を用いた歯周病予防薬の開発に関する基礎的研究
伊ヶ崎 理佳		特任准教授	在宅歯科医療の分野における歯科衛生士の人材育成に向けた教育プログラムの開発
菅谷 彰	歯学教育学講座	教授	障害者に対する歯科医学教育のあり方と可能性
大平 寛	災害医療歯科学講座	講師	大規模災害時の遺体情報一元管理システム構築に関する研究
畑 隆一郎		特任教授	分子標的予防医学への挑戦：BRAK 遺伝子の in vivo 導入による癌の肺転移抑制
栗原 淳之	口腔機能修復学講座	助教	被災高齢者の口腔内環境改善の取組み—光ナノ触媒の義歯への応用—
山田 健太郎		特任講師	抑うつ、心疾患の抑制に効果的な咀嚼運動の神経科学的解明
東 雅啓	口腔科学講座	助教	メタボローム解析による唾液を用いた認知機能障害の新規診断・評価法の開発
生駒 文晴	顎顔面機能再建学講座	助教	選択的幼弱血管阻害分子 BRAK の臨床応用に向けて
淵田 慎也	口腔科学講座	助教	歯周疾患の地域格差縮小に向けた市区町村事業評価ベンチマークの開発
吉田 彩佳		特別研究員	歯周病原細菌取込み色素を利用した抗菌光線力学療法の基礎解析
宮本 千央		特任講師	抗腫瘍タンパクの局在に着目した新規悪性腫瘍治療薬を「育薬」する
林 恵美	全身管理医歯学講座	助教	造血幹細胞移植患者の口腔内細菌叢の変化が粘膜障害に与える影響の解明
尾崎 博弥	横浜クリニック	診療科助教	矯正治療のリスクとベネフィット—歯の移動と歯根吸収の定量による至適矯正力の決定—
佐々木 悠		特別研究員	カカオ豆抽出物による歯周病の改善効果に関する基礎的研究
山本 裕子	短期大学部歯科衛生学科	講師	食物要因による唾液中 IgA 増加メカニズムの解明：歯科からの健康寿命延伸を目指して
木本 克彦	口腔機能修復学講座	教授	多軸鍛造技術を応用した次世代 MDF 純チタンの医療材料への展開
青木 一孝	全身管理医歯学講座	教授	Dehydroepiandrosterone の生理作用の解明
飯田 貴俊	全身管理医歯学講座	講師	歯学生教育のための口腔期嚥下障害体験シミュレータの開発
向井 義晴	口腔機能修復学講座	教授	ポリマイクロバイアルバイオフィルムモデルを用いた根面齲蝕研究モデルの開発と応用
三好 代志子	口腔科学講座	講師	ナノ修飾光触媒ハイブリッド微粒子を用いた口腔癌治療への応用研究
前畑 洋次郎	口腔科学講座	講師	EGFR シグナル阻害作用をもつ天然由来成分を応用した口腔癌治療薬の開発
居作 和人	口腔科学講座	講師	多段階癌抑制分子 CXCL14/BRAK の癌幹細胞を標的とした頭頸部癌抑制戦略
渡辺 清子	口腔科学講座	講師	ポリフェノールの生体内動態と歯周炎予防機序の解明
三辺 正人	口腔機能修復学講座	教授	非アルコール性脂肪性肝疾患と歯周病の関連および同疾患への歯周治療効果に関する検討
李 昌一	横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センター	教授	メンタルストレスで生ずる活性酸素種の同定と抗酸化物質によるストレス軽減法の検討
鈴木 二郎	口腔機能修復学講座	講師	硬組織溶解能を利用した根管洗浄液の有効性に関する基礎的研究
石井 信之	口腔機能修復学講座	教授	花粉症のアレルギー性鼻炎症状改善における歯科保存治療の応用に関する研究
木本 克彦	口腔機能修復学講座	教授	抗酸化型ナノドックス粒子による新たなインプラント周囲炎治療法の開発
松澤 直子	附属病院	非常勤歯科医師	高齢者の高次脳機能と酸化ストレスに対する効果的な摂食嚥下機能療法の探索
室町 幸一郎	口腔機能修復学講座	助教	歯髓細胞のグライコームシフトに着目した修復象牙質形成機序の解明
三宅 香	口腔科学講座	助教	新規抗菌性シランカップリング剤の開発・応用
丸尾 勝一郎	口腔機能修復学講座	助教	超小型プローブを用いた高周波超音波のデジタル印象への応用【挑戦・展開】
横江千寿子	全身管理医歯学講座	助教	手術中のアーチファクト存在下での BIS 値および AEP 値の信頼性の比較検討
宮本 阿礼		特別研究員	ケモカイン CXCL14 の骨代謝メカニズムを応用した新規骨再生療法の開発

就任挨拶



全身管理医歯学講座（内科）教授
青木一孝

全身管理医歯学講座(内科)教授を拝命しました青木一孝です。簡単ではありますが自己紹介をさせていただきます。私は平成8年信州大学医学部卒業、平成11年横浜市立大学医学部大学院（第3内科）卒業後横浜市立大学医学部内分泌・糖尿病内科に長らく在籍

してきました。

糖尿病学会専門医、内分泌学会専門医としての経験を生かし当大学の歯科の諸先生方と連携診療を積極的に進めべく、糖尿病の早期発見、治療に努力して参る所存です。また、学生教育や研究も積極的に行っていきたいと考えています。

よろしく願い致します。



神奈川剖検センター長・災害医療歯科学講座教授
長谷川 巖

本学の神奈川剖検センター長・災害医療歯科学講座教授を拝命しました長谷川 巖と申します。東海大学医学部を卒業後、医師として社会医学系の法医学、産業医学、画像診断学を中心に従事してまいりました。亡くなってしま

に、画像診断技術を応用し、より精度の高い診断が可能となるよう、ドイツのハンブルク大学医学部法医学研究所で、客員教授として研鑽を積んで参りました。死因究明は、そのかたの「おからだ」に遺されたメッセージを、御家族や次世代へお伝えするという重要な役割があります。尊い命から教えて頂いたメッセージを、本学の教育、診療、研究に活かして、皆様のお役に立つよう日々、努力してまいりますと存じます。

神奈川県民功労賞を受賞

平成28年6月10日（金）、短期大学部歯科衛生学科 鈴木幸江教授が、神奈川県庁において神奈川県民功労賞を受賞されました。受賞理由は、神奈川県内歯科衛生士養成機関の教員として、歯科医療機関および地域歯科保健活動の現場で活動する歯科衛生

士の養成に携わると共に、地域歯科保健活動に積極的に参加し、県民の歯科保健の普及向上および推進に貢献したこと、神奈川県歯科衛生士会副会長として歯科衛生士の資質向上を図るための指導・育成に多大な尽力をされたことが評価されたためです。



第144回 日本歯科保存学会

平成28年6月9日（木）、2016年度春季学術大会（栃木県宇都宮市で開催）にて口腔機能修復学講座（歯髓生物学分野）の室町幸一郎助教が日本歯科保存学会奨励賞を受賞されました。受賞論文名は、「CCN2/CTGF expression via cellular uptake of BMP-1

is associated with reparative dentinogenesis (Oral Diseases 誌21巻778～784頁2015年発行)」です。受賞演題名は「BMP-1はエンドサイトーシスを経てCCN2/CTGFの発現を促進し第三象牙質形成に関与する」です。



横須賀市エンディングプラン・サポート事業と神奈川歯科大学 献体事業との協定

平成28年11月15日(火)、横須賀市のエンディングプラン・サポート事業と本学献体事業とが連携協定を締結しました。自治体と大学との協定は全国初となります。

献体は、ご本人の「医・歯学への貢献」という崇高な理念によって支えられている事業ですが、献体のご意志がありながら、お一人暮らしで身

寄りがない方の場合、諸手続きが出来ないこともあり、献体登録をお受けすることができませんでした。今回の連携協定により、横須賀市のエンディングプラン・サポートを申込みされている方については、横須賀市が支援することで、ご希望を叶えることが出来ることになりました。



(左から平田幸夫学長、鹿島 勇理事長、吉田雄人市長)

問合せ先

神奈川歯科大学白菊会献体事務局
電話 046-822-9355
FAX 046-822-9317

防災訓練

平成28年11月18日(金)、全学防災訓練を実施しました。

今回の防災訓練は、法人防災訓練の中核を担う「自衛消防組織編成」に基づくより実践に近い訓練とし、地震発生から津波を想定した総合訓練と致しました。

16:20～地震発生を告げる緊急地震速報を合図に、建物毎の地区隊長、指揮通報・避難誘導班中心に、積極的に

参加する姿が印象に残りました。



(煙ハウスの体験)

訓練のメインに当たる耐震建築である学内4棟の3階以上への避難行動では、目標時間を1分超過しましたが、前

回よりも2分短縮する事ができました。



(消防本部 1号館4F)

第11回神奈川歯科大学白菊会 総会及び懇親会

平成28年10月1日(土)に、白菊会第11回総会が執り行われました。

式典には、ご遺族様ら280名の方にご参列賜りました。御献体者1,962柱の御霊に黙祷を捧げ、平田学長、松尾教授より総会の重要性が語られました。

歯学部2年生石井孝幸さん

と千生倫さんから、実習の体験と感謝の言葉が語られ、6名のご遺族様から学生に向けた心温まる励ましのお言葉を頂戴しました。

聖ヨゼフ病院臨床パストラルカウンセラーの山下清美様からの講話の後、剖検センター長の長谷川教授より、CT観察の説明、東海大学献

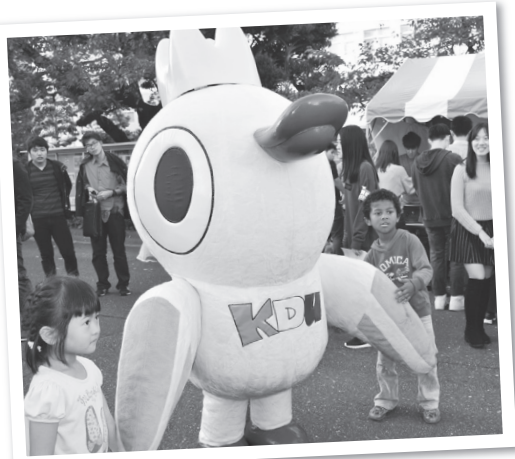
体実務担当の遠藤京子様からのお言葉、最後に口腔機能修復学講座飯塚純子先生より解剖実習で体験されたことから「解剖学の重要性」について

語られました。

その後、親しく和やかな雰囲気の中で懇親会が行われ、式典は無事終了しました。



平成 28 年 11 月 5 日 (土)、「World Wide」をテーマに今年で 52 回目を迎える稲岡祭を開催致しました。今年も歯科大と短大とが一丸となり、積極的に学園祭を盛り上げ、子供からお年寄りの方まで多くのお客様にご来場いただきました。スペシャルゲストライブには、「が~まるちよば」「シクラメン」「wacci」らが出演し、大盛況となりました。各クラブや有志団体からは「チュロス」「焼きそば」「肉まん」「わたあめ」といった馴染みのある出店で会場を賑わせ、「チヂミ」や「タピオカミルクティー」など国際色のある出店もあり大変盛況でした。また横須賀市福祉施設の方々による出店、大講堂ではカ・オリ・フラスタジオ主催の「フラの祭典」が開催された他、本学独自の「無料歯科相談」「医療体験」「石膏体験」なども加わり大変賑やかな学園祭となりました。



が~まるちよば



シクラメン



wacci

第52回 稲岡祭 World Wide



2回 稲岡祭

World Wide

この度は、第52回稲岡祭“World Wide”にご来場いただきありがとうございます。また、第52回稲岡祭開催に伴い、学生を初めとする神奈川歯科大学職員・先生方、並びに地域の皆様にはご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度の稲岡祭のテーマである“World Wide”は、世界的な広い視野で「医療」「環境」「文化」について、神奈川歯科大学内外問わず広く考えさせてもらうことを目的といたしました。そのため、出店の分野では、台湾や韓国を初めとする様々な国の食品を提供し、またステージにおいても、世界中で活躍されているアーティストにご協力いただきました。関係者の皆様、ありがとうございました。

今回の第52回稲岡祭“World Wide”は、前年度を大幅に上回る2,000人以上の方々にご来場いただきました。今後も大学の発展に尽力し、地域の発展に貢献していく予定です。ありがとうございました。

(稲岡祭実行委員会)



新病院 建設報告

平成 29 年秋完成を予定している新病院の現在の建築状況は、最上階（12 階）がある北面部分及び国道 16 号線側の低層階の建築が進んでいます。

新病院の概要は 1 階から 5 階を歯科・医科の診療部門。6 階から 9 階は教育部門（学生教育、臨床研修）10 階にはレストランラウンジ、12 階に講堂を予定しています。鉄骨が組み上げられる状況を毎日見ていると、新病院への期待感が膨らみます。



（完成予想図）



（基礎工事 2016 年 9 月頃）



（1F フロアーイメージ図）



（2016 年 11 月下旬頃）

12 階	講堂
11 階	臨床研究センター 災害医療センター
10 階	レストランラウンジ 地域連携室
9 階	全身管理医歯学講座 顎顔面機能再建学講座
8 階	口腔統合医療学講座
7 階	スチューデントドクタールーム 臨床研修センター
6 階	技工部門 SPD
5 階	病棟（23 床予定） 手術室 病理診断科
4 階	口腔外科 口腔内科 内科 放射線科 検査科
3 階	歯科医科連携センター 先進医療センター（CAD・CAM、インプラント、無痛、マイクロ） オーラルケアセンター
2 階	学生診療室 スキルラボ
1 階	エントランス 障がい者歯科 全身管理高齢者歯科 薬剤科

（各階案内図予定）

横浜クリニックからのお知らせ

●麻酔科・歯科麻酔科

日本麻酔科学会認定病院になりました。

県内の麻酔科学会認定病院は、皆様をご存知の有数な病院ばかりです。厳しくなる新専門医制度の施行前に認定されたことは大変幸運だったと思います。常に最新情報に気

をつけて、一般的な麻酔科医師が行うスタンダードな麻酔法を基本に安全に努めたいと思います。

（麻酔科・歯科麻酔科 診療科長：有坂博史）

●歯科口腔外科

日本口腔外科学会認定の研修施設になりました。准研修施設から研修施設に昇格出来ました。これにより、研修期間の減算が無くなり、認定医、専門医さらに指導医まで横浜クリニックで取得することができるようになりました。

（歯科口腔外科 診療科長：中村 篤）

新規検査のご案内

呼気中の一酸化窒素濃度を測定する呼気 NO 検査を実施しています。喘息の症状がある人は、症状の無い人より一酸化窒素の呼気濃度の数値が高く表示されます。長引く咳の方が喘息か否かの診断に有効です。詳細は、横浜クリニック内科へご相談ください。

（045-313-4033）

カリキュラムプランニングワークショップの開催 in 湘南国際村

平成 28 年 9 月 10（土）～11 日（日）に湘南国際村 IPC 生産性国際交流センターにてカリキュラムプランニングワークショップが再開されました。

平成 14 年から平成 17 年まで葉山湘南国際村にて 1泊 2 日で教育手法を学ぶワーク

ショップを開催し、毎年多くの教員が参加していましたが、神奈川歯科大学の経営危機もあり 9 年間途絶えていました。今回のテーマは「神奈川歯科大学における歯学教育について」として、平田学長、菅谷副学長、槻木副学長、木本茂成副院長、窪田 FD 委



員長のもと総勢 39 名で開催されました。皆医学教育漬けの有意義な 2 日間を過ごすことができました。

教学部だより

歯学部

平成28年度 第2回授業参観・学年別懇談会

第2回授業参観・学年別懇談会が平成28年9月29日

(木)に開催され、114組の保護者の皆様にご出席いただきました。午前は各学年の講義や実習の様子をご見学いただき、午後の全体説明会では平田学長からのご挨拶、菅谷

副学長・櫻井教務担当部長から学生生活・カリキュラムについての説明が行われました。その後、学年別懇談会が行われ、各学年主任・担任から学生の様子や学生サポート状況について報告がなされ、希望者には学年担任との個別

面談が行われました。



第48回 全日本歯科学生総合体育大会

第48回全日本歯科学生総合体育大会が平成27年12月から平成28年8月にかけて開催され、今大会の優勝は愛知学院大学歯学部、準優

勝は日本大学歯学部でした。本学は全29校中、28位でした。その中でも本学は女子走り高跳、アーチェリー新人戦男子と女子個人、卓球男子新人戦、女子スキー部団体などが優勝し、また陸上部男子三

段跳、ゴルフ部女子個人、スキー部女子個人で第3位と見

事な成績をおさめ、大健闘でした。

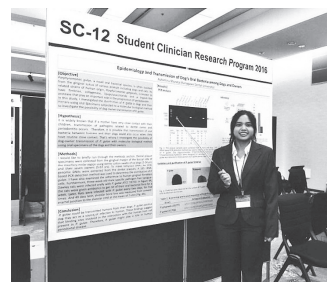


SCRP 日本代表選抜大会

平成28年8月19日(金)、東京市ヶ谷の歯科医師会館にて第22回日本歯科医師会学生チューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会

が開催されました。本大会では、全国歯科大学／歯学部から各1名の代表学生によって英語による研究発表が行われました。本学からは、3年生の村田亜志美留さんが「Epidemiology and

Transmission of Dog's Oral Bacteria among Dogs and Owners」という演題でイヌの口腔細菌がヒトに伝播するという内容を発表しました。



短期大学部

平成28年度 神奈川歯科大学短期大学部 生涯学習セミナー

平成28年10月20日(木)に「歯(は)なしにならない話(はなし)」の題名で、公開講座を開催しました。

事前申込制で、95名の方から応募を頂きました。講演

は、神奈川歯科大学附属病院ペリオケア外来の根本千聖歯科衛生士、金指幹元歯科医師、神奈川歯科大学歯周病診療科三辺正人教授の3名が行いました。

はじめに根本歯科衛生士より、歯周病の原因、病態、治療法についての説明があり、次に三辺正人教授から歯周病

と全身疾患について講義が行われました。最後に講義中に寄せられた質問について金指歯科医師が答えるという3部構成で行われました。口の健康は大切で歯を残すことの重要性を理解されている参加者が多く、熱心に講義に聞き入り、メモをとっていました。

今後も受講者の要望に添っ

たセミナーを開催する予定です。(アカデミックサポート委員会)



戴帽式

平成28年9月10日(土)に、今年度の戴帽式が挙行されました。これまで、看護師の象徴だったナースキャップは1990年代の後半から廃止が始まり、今世紀に入りほとんどの病院でみられなくなりました。今年戴帽式を迎えた彼らのほとんどは、ナースキャップの廃止が始まった

ころに生まれており、ナースキャップをつけた看護師を知らない世代です。

そんな彼らにとって戴帽式とはどのような意味があるのか、戴帽式を終えた1か月後に尋ねてみました。すると、「看護師になりたいと改めて思った」、「気が引きしまった」などと語り、医療職に就くための覚悟を確認したり、意欲

を高める機会になっていることが分かりました。そして、ナースキャップを知らない世代の彼らであっても、戴帽式は目指す職種への意志を促進させるためのイニシエーションとして意味ある儀式ということが分かりました。

今後は、ここで

誓ったことを胸に、愛の精神に満ちた看護師、歯科衛生士として社会に貢献することを期待します。



大学院だより

オリゴ糖が唾液 IgA を増加—日本
歯科新聞 1 面で取り上げられる—

本学口腔科学講座環境病理
学榎木恵一教授および短期大
学部歯科衛生学科山本裕子講
師らの研究グループは、フラ
クトオリゴ糖を摂取すること
で唾液中の抗菌・抗ウイルス
物質である IgA が増加すると

いう研究成果を、昨年 8 月 17
日(水)に Nutrients(IF = 3.759)
に発表し、昨年 10 月 5 日(水)
に日本歯科新聞の 1 面で大き
く取り上げられた。実験で用
いたフラクトオリゴ糖は、難
消化性糖類の 1 つで大腸にお
いて細菌代謝され、プレバイ
オテイクスの効果を発揮しま

す。フラクトオリゴ糖は、カ
ロリーが低いことから糖尿病
の方などが利用しやすい甘味
料であると同時に、免疫力の
向上、大腸がんの予防、便秘
の解消などの効果があること
から注目されている食品です。
今回の研究の特徴は、このフ
ラクトオリゴ糖が、唾液中の
IgA を増加するという新しい
機能を見出し、腸管への刺激

が唾液腺に影響を与える腸—
唾液腺関連の存在を世界で初
めて報告したことにあります。
今後、プロバイオテイクスの
評価に唾液 IgA の測定が応用
できる可能性が示唆されると
同時に、口腔の免疫力の向上
により感染予防を図る新しい
歯科栄養指導への発展も目指
しており、今後の研究の進展
が期待されます。

2017 年度 入学試験実施一覧

歯学部歯学科 (定員 110 名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表
一般 1 期	2017 年 1 月 28 日 (土) 1 月 29 日 (日)	2017 年 2 月 1 日 (水)
一般 2 期	2017 年 2 月 19 日 (日)	2017 年 2 月 22 日 (水)
一般 3 期	2017 年 3 月 12 日 (日)	2017 年 3 月 15 日 (水)
編入 3 期	2017 年 2 月 19 日 (日)	2017 年 2 月 22 日 (水)
編入 4 期	2017 年 3 月 12 日 (日)	2017 年 3 月 15 日 (水)
試験区分	試験日	合格発表日
大学入試センター試験 利用 1 期	2017 年 1 月 28 日 (土)	2017 年 2 月 8 日 (水)
大学入試センター試験 利用 2 期	2017 年 2 月 19 日 (日)	2017 年 2 月 22 日 (水)

※詳細はホームページをご覧ください

2017 年度 オープンキャンパス開催日程

【短期大学部】オープンキャンパス 2017 開催日程	
日程	内容
2017 年 3 月 19 日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・体験授業 ・学内見学 ・学科説明 ・個別相談 ・入試説明 ・先輩と話そう!

※全日 13:00 ~ 16:00 【事前予約制】
※詳細は HP、スマホサイトでご確認ください



短期大学部歯科衛生学科・看護学科

歯科衛生学科 (定員 120 名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表
一般	2017 年 1 月 29 日 (日)	2017 年 2 月 1 日 (水)
特待生	2017 年 1 月 29 日 (日)	2017 年 2 月 1 日 (水)
試験区分	試験日	合格発表日
AO 3 期	個別にお知らせいたします	

※詳細はホームページをご覧ください

看護学科 (定員 80 名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表
一般	2017 年 1 月 29 日 (日)	2017 年 2 月 1 日 (水)
特待生	2017 年 1 月 29 日 (日)	2017 年 2 月 1 日 (水)
試験区分	試験日	合格発表日
AO 2 期	2017 年 3 月 5 日 (日)	2017 年 3 月 14 日 (火)

映画「キセキ—あの日のソビト—」

平成 29 年 1 月 28 日 (土) 公開

歯医者と歌手!? 誰もが知
る名曲「キセキ」の誕生にま
つわる、二つの夢を追いか
けた若者たちのキセキの物語。

出演: 松坂桃李・菅田将暉
主題歌: GReeeeN「ソビト」
(ユニバーサルミュージック)

[本学で 2 日間にわたり撮
影が行われました。この機会
に是非ご覧ください。]



写真提供 ©2017「キセキ—あの日のソビト—」製作委員会